

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ミャンマー連邦共和国

日付：2020年6月30日

報告書名：平成30年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

平成30年度日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

2020年6月30日

事業名	ミャンマーカレン州南東部におけるコミュニティリソースセンターを通じた復興・再定住支援事業 The Project for Rehabilitation and Resettlement through Community Resource Center in Southeastern Kayin state, Myanmar
事業対象地	ミャンマー連邦共和国カレン州ミャワディ郡 レイケイコー村、ゾーズイーミヤイン村
事業期間	事業期間：2019年3月31日～2020年3月30日
公的資金種別	平成30年度 日本NGO連携無償資金協力
総支出・返還金	総支出：50,557,481円（返還額：1,867,566円）
プロジェクト目標およびその達成度	「対象村の住民の復興・再定住に必要な情報及び学習リソースへのアクセスが改善される」ことをプロジェクト目標として事業実施した。 対象村のレイケイコー村およびゾーズイーミヤイン村に建設したコミュニティ・リソース・センター（CRC）の開所から事業終了までの期間は4か月間であり、この間の登録者住民（大人、青少年）とセンターを利用する子どもに対し、必要な情報へのアクセス状況等について簡易質問表にて確認を行った。「配架されている図書は自分の関心と合致し、必要な情報を得ることに適している」「CRCから新たな知識や技能などを得ることが出来ている」との回答が全員から得られた。よって、CRCを基点とした情報および学習リソースへのアクセスは改善されていると考えられる。しかしながら、対象地域でのアクセス改善に向けて継続して対象村内でのCRCサービス・活動を周知していく必要がある。
実施内容概要	<ol style="list-style-type: none"><li><b>コミュニティリソースセンター（以下、CRC：Community Resource Center）建設</b> ミャンマーに帰還する人々および元々その土地に住む人々の情報・学習源へのアクセス拠点としてCRC施設（多目的ホールおよびトイレを含む）を事業対象村ごとに建設した。</li><li><b>CRC運営のための能力強化</b> CRCの運営を担うCRC職員（各村2名）およびCRC運営管理委員会メンバー（各村約7名）に対して、運営研修やサービス実践研修を実施した。</li><li><b>CRCプログラム（サービス、活動）の提供</b> 2019年11月に対象村でCRCが開所しCRCプログラム（サービス・活動）の提供を開始した。CRC職員により、12歳以上の利用者に対する図書の貸し出し、PCまた掲示板を活用した情報提供、子ども向け読み聞かせや文化活動（折り紙、ゲーム、歌など）実施、会議・研修室利用の事前予約受け付け、多目的ホールでの会議、イベントなど開催のための準備、事前予約受け付け、新規図書の登録作業、利用者データ集計、利用者対応など多岐に行われた。【受益者数】レ</li></ol>

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ミャンマー連邦共和国

日付：2020年6月30日

報告書名：平成30年度 日本 NGO 連携無償資金協力 完了報告書

	<p>イケイコー村 2285 人、ゾーズイーマイン村 1702 人</p> <p><b>4. ネットワーク構築</b></p> <p>地域住人に対する CRC 活動・サービスの活発な提供に向けたネットワーク構築を目指し、候補者選びを実施。協議結果の下で、各村の内部・外部アクターが選定された。内部アクターとしては青少年・女性・青年開発グループ、外部アクターとしては郡総務局、広報局、NGO が含まれる。各アクターと CRC 管理委員会が参加する形で会合が 2 回開催され、主に各アクターの活動内容や CRC との連携構築に向けたアイデアの共有が行われた。</p>
成果	<p><b>1. CRC が建設され、施設が対象村の村開発委員会に引き渡された。</b></p> <p>各村から 15 名ずつ代表が CRC 管理委員会に参加し、建設を終えた施設に必要な物資を設置後、11 月に開所。運営は CRC 管理委員会及び村開発委員会が担当している。</p> <p><b>2. CRC 運営に必要な能力強化がなされている</b></p> <p>各村の管理委員会関係者に対し質問調査を実施し、研修後では全体の 90% が運営方法を理解したと回答。併せて、CRC でのサービス提供に関する技術についても、研修を経て全体の 86% が理解したと回答した。年間計画についても CRC 管理委員会内で作成。</p> <p><b>3. 各村において CRC のサービスが提供される。</b></p> <p>それぞれの住人に対して CRC の認知度を図る調査を実施した結果、田タイと比較してレイケイコー村は 92%、ゾーズイーマイン村では 51% もの十二が CRC を認識。</p> <p><b>4. CRC 連携のためのネットワーク構築が行われる</b></p> <p>レイケイコー村においては、内部および外部アクターが 10 団体選定された。ゾーズイーマイン村については、6 団体が選定。各アクター間での会合も年に一回開催される運びとなった。</p>
課題と対応策	<p>新型コロナウイルスの影響により 2020 年に計画されていた第 5 陣の難民帰還は延期となり、帰還難民プログラムが一時的に止まっている。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)によると、国境沿いにある 9ヶ所の難民キャンプには、2020 年 2 月時点で約 93,000 名が暮らしており、本事業開始時との比較にて帰還プロセスの進捗はあまり見られない状況にある。本事業で建設した CRC の認知度が各村併せて 80% を超えるよう、今後も認知度向上を目指した活動を継続する必要がある。ネットワーク構築においては、ゾーズイーマイン村についても参加団体が 10 を超えるよう、より積極的なネットワーク構築に努めることが求められる。</p>
教訓・提言	